

2007年3月期 決算説明会



【神戸空港】



2007年5月15日



株式会社エージーピー

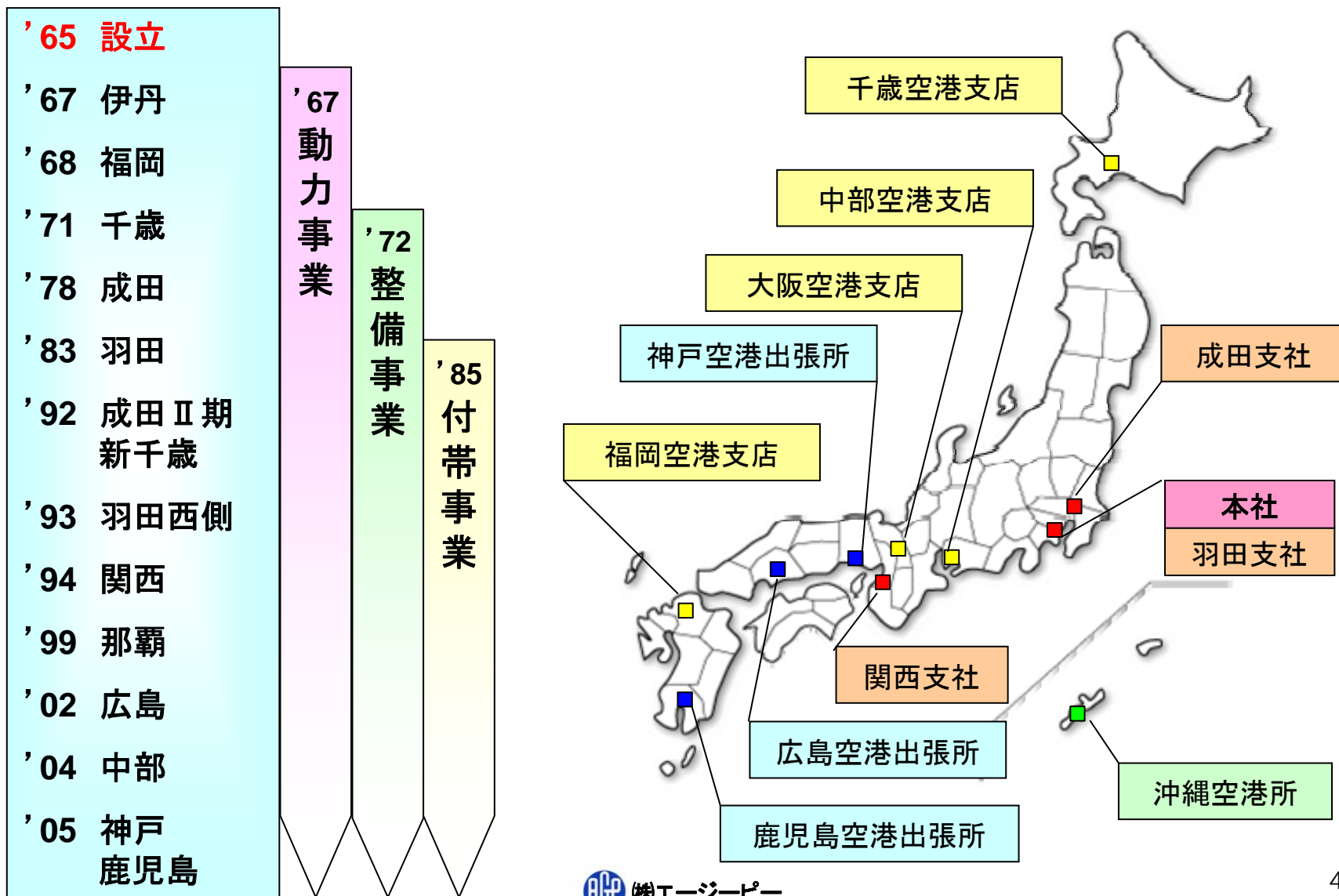
目 次

- はじめに
- 中期計画(2007年度～2009年度)の概要
 - 当社発展の軌跡
 - 当社の事業概要
 - 前中期計画との差異
 - 当社を取り巻く事業環境
 - 中期目標
 - セグメント別経営戦略
 - 収支計画
 - 設備投資計画の概要
 - 経営の基本方針
- 2007年3月期 業績報告(連結)
 - トピックス
 - 業績の概要
 - 次期の業績見通し



中期計画 (2007年度～2009年度)

当社発展の軌跡 ①

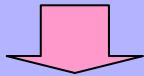


当社の事業概要

動力事業



APU (Auxiliary Power Unit)



GPU (電力供給)

整備事業



手荷物搬送設備 (BHS)



旅客搭乗橋 (PBB)

付帯事業 (フードカート)



(当社製) 保冷・加熱カート



(他社製) 温冷配膳車

前中期計画との差異(連結)

(単位:百万円)

区 分	2006年度		
	前中期計画 ※	実 績	差 異
動力事業	4,883	5,138	255
整備事業	4,577	4,963	386
付帯事業	1,112	1,029	△83
売上高 計	10,573	11,131	558
経常利益	498	855	357
当期純利益	259	483	224

※2006年5月9日に発表した計画値を記載しております。
 なお、2006年10月26日に業績予想を修正いたしております。

(注)百万円未満は切捨てにて表示

当社を取り巻く事業環境①

■ 航空業界

国際旅客を中心に堅調な伸びが見られるものの、
原油価格の高止りが航空各社の経営を圧迫

空港整備計画の進展

2007年8月

- ・関西Ⅱ期滑走路供用開始

2010年3月

- ・成田空港平行滑走路 2,500m化

2010年10月

- ・羽田空港第4滑走路供用開始
- ・羽田空港新国際線ターミナル供用開始

年間発着枠が約1.4倍になり
本格的な航空需要の拡大へ！！

原油価格の高止り

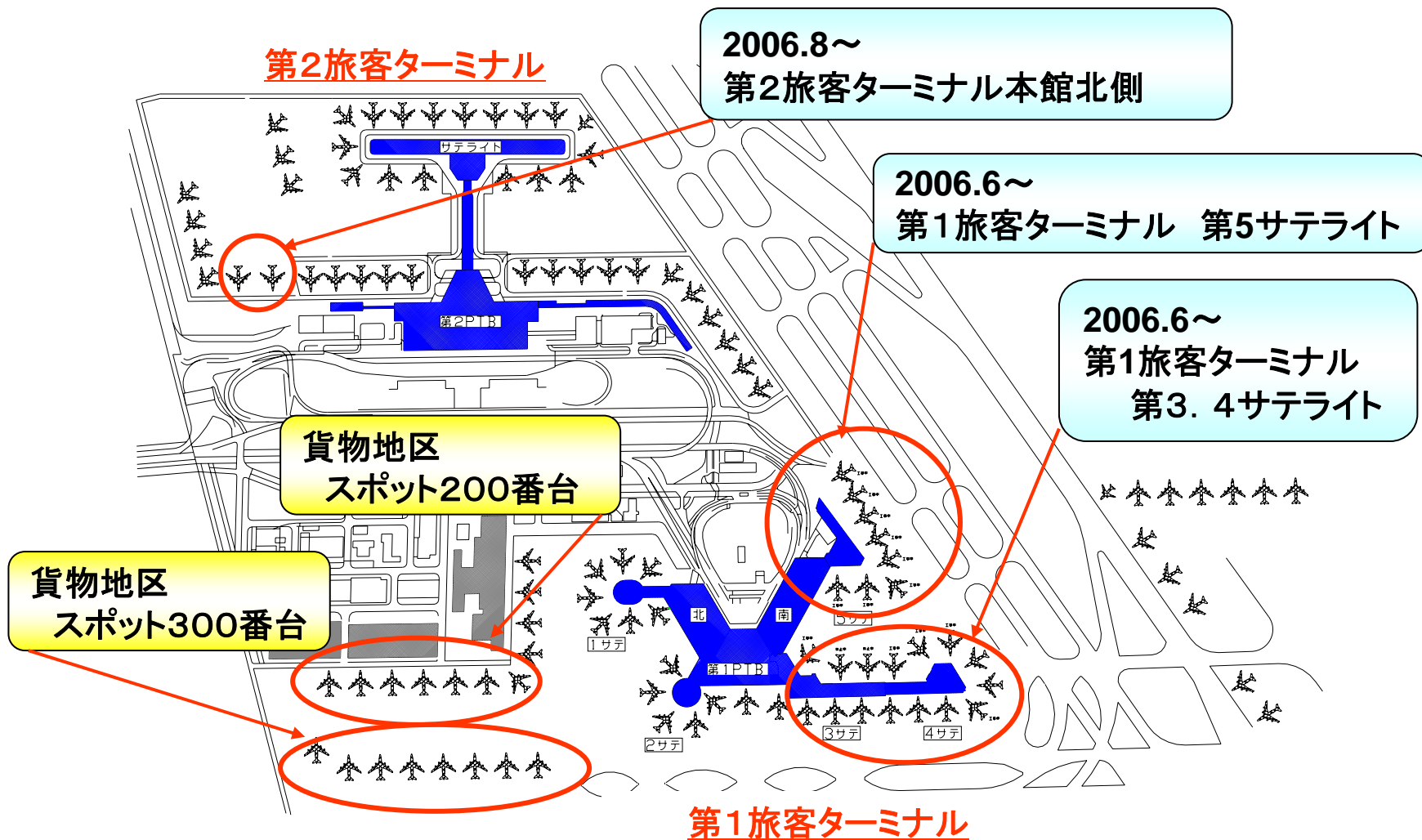
動力にはプラス

原油価格の高騰は・・・

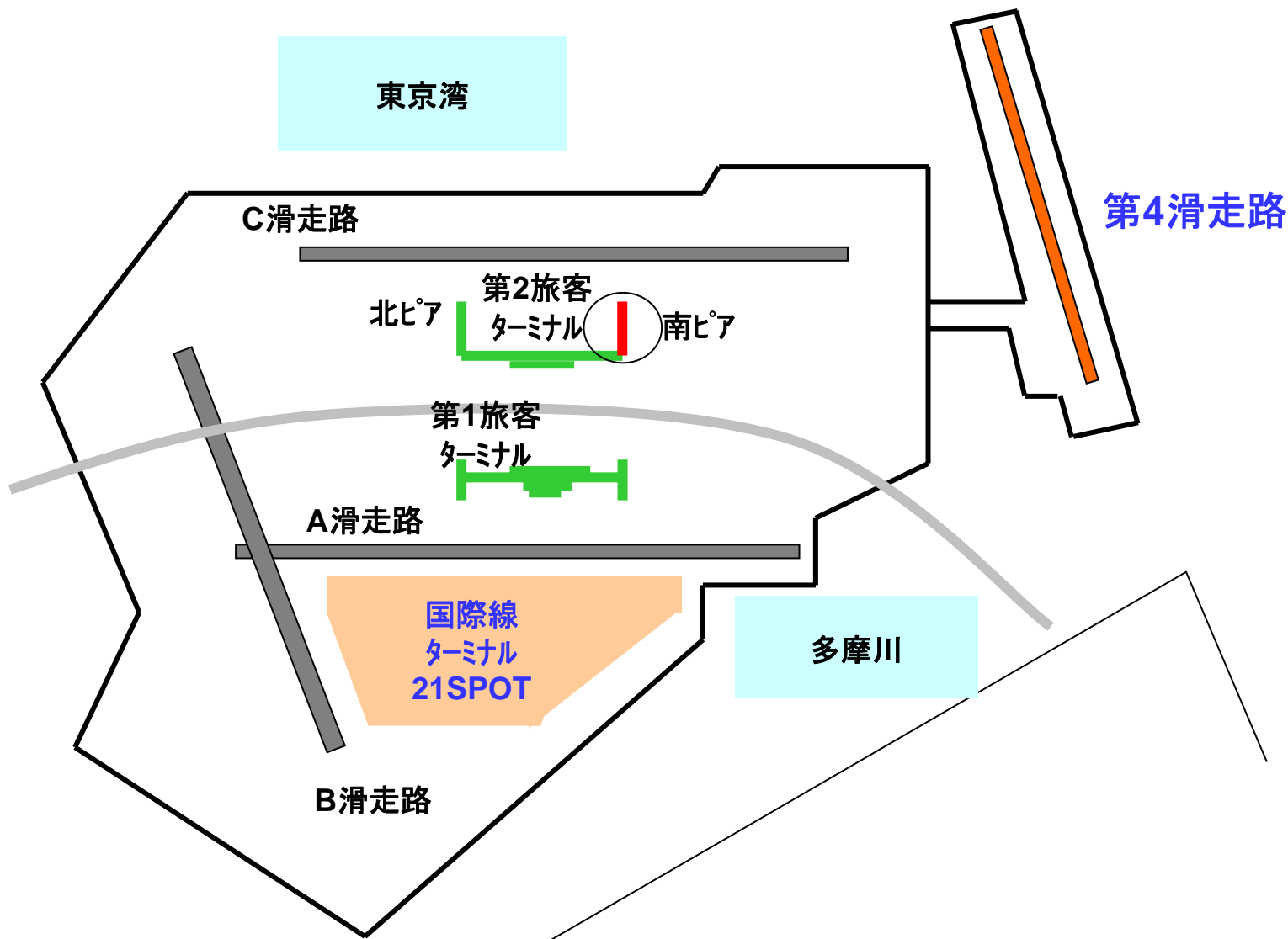
整備にはマイナス

環境意識の高まり

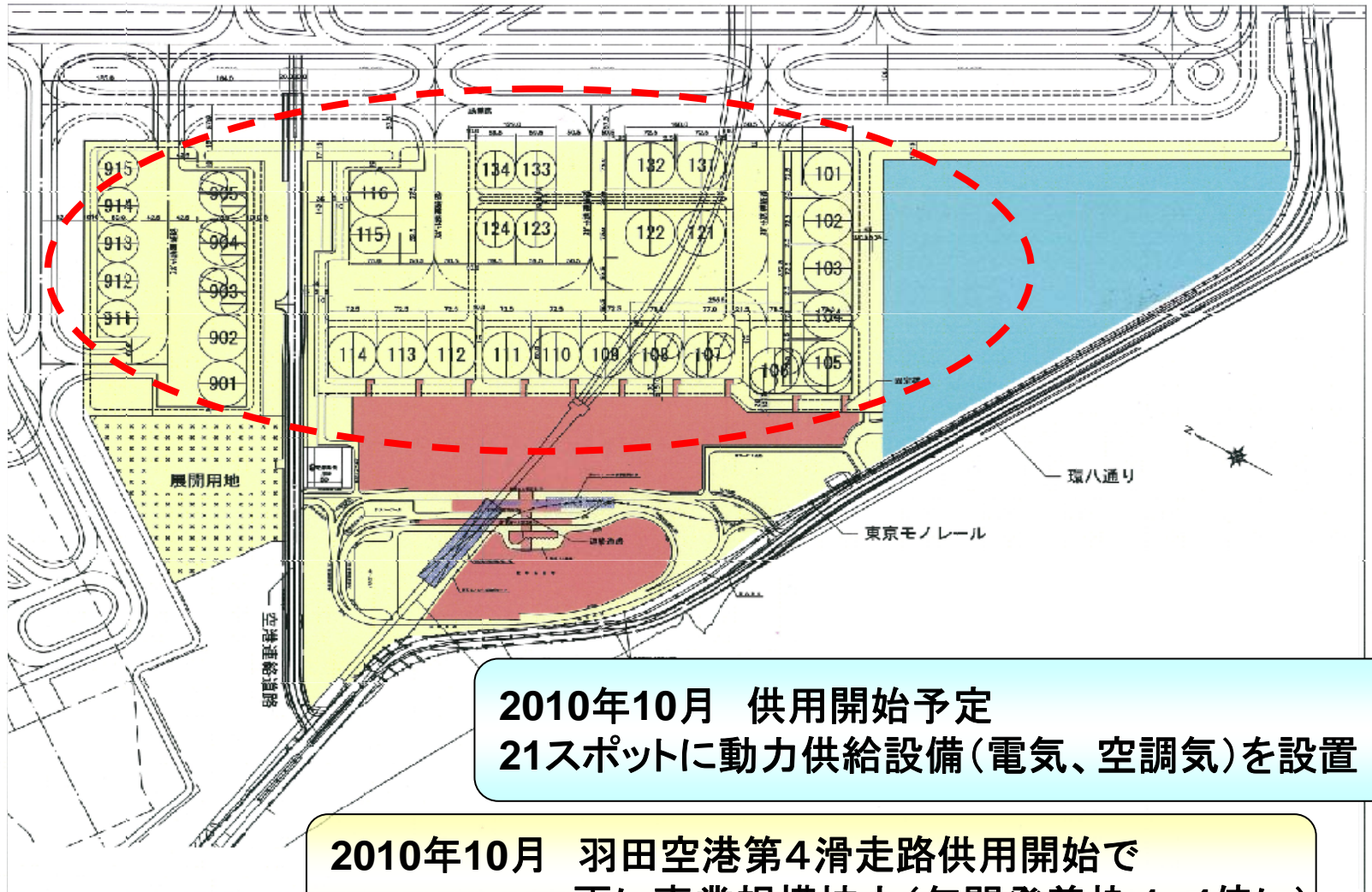
成田空港拡張概略図



羽田空港再拡張概略図



羽田空港 国際線ターミナル



2010年10月 供用開始予定
21スポットに動力供給設備(電気、空調気)を設置

2010年10月 羽田空港第4滑走路供用開始で
更に事業規模拡大(年間発着枠 1.4倍に)

当社を取り巻く事業環境②

■ 学校、病院、介護・福祉分野

各種規制緩和による、アウトソーシング化の拡大

食の安全追求

作業効率の向上

買替え時期の到来

美味しさの要求

給食システムの改善が進展

- ・クックチルシステム
- ・セントラルキッチン方式

カートの
買替え需要の増大

市場のニーズは確実に上昇

中期目標

■ 中期目標(2007年度～2009年度)

① 事業規模の更なる拡大と、経営基盤の強化により
増収増益基調の維持を目指す

② 目標とする経営指標『ROE』の10%達成を目指す

③ 株主への安定的、継続的な配当を目指す

セグメント別経営戦略【動力事業】①

- ①昨年度導入した【新動力料金体系】の特長を生かした
 - ・潜在需要のある外国社等への使用率の増
 - ・APU運転時間の短縮によるGPU使用時間の延伸
- ②羽田・成田空港での設備の増強や、準幹線空港への展開
- ③外国航空会社本国への積極的な営業

新動力料金体系

目的

- ・比較的駐機時間の短い小型機等が、より使用しやすい仕組みや価格に変更する。
- ・新動力料金体系を営業ツールとして航空会社への働きかけを強化し、収益の拡大を図る。

効果

- ・実質的な値下げ効果と原油価格の高止りや環境意識の高まりにより、GPU使用が拡大
- ・成田・関西空港を中心に外国航空会社の使用も拡大

* 値下げ分を上回る増収

セグメント別経営戦略【動力事業】②

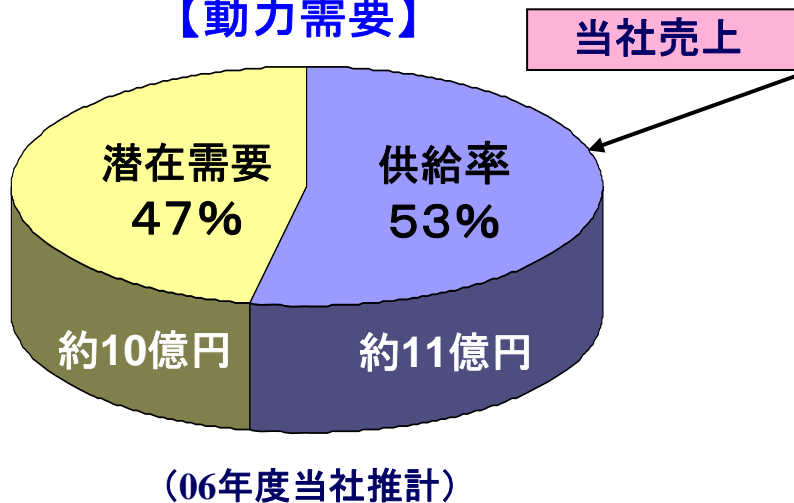
生産設備の増強

【成田空港】 貨物地区(200, 300番台)(15スポット)・・・(2007～2008年度)
 ※平行滑走路の2,500m化により、年間発着枠増大！！

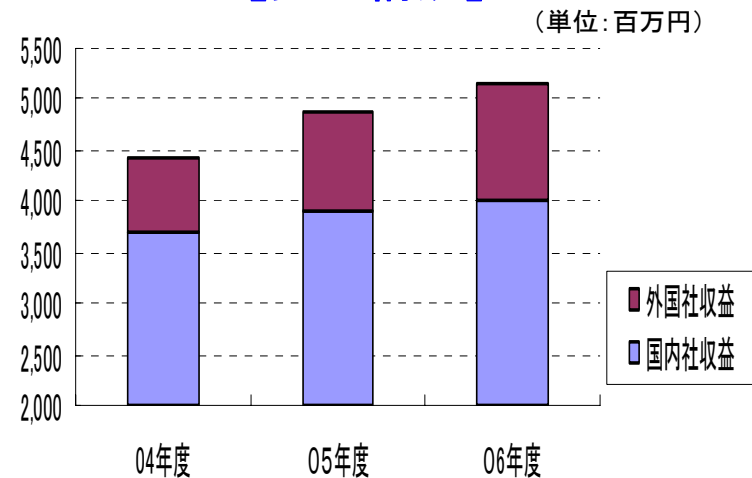
【羽田空港】 新国際線ターミナル地区(21スポット)・・・(2010年10月)
 ※第4滑走路の供用開始により、年間発着枠1.4倍に！！

外国航空会社の潜在需要

【動力需要】



【売上構成】



GPUを使用したことによる環境に対するメリット

燃料の削減

(2006年度実績)

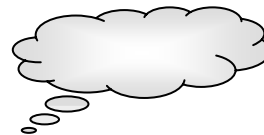
- ・B777-200で年間約7,450往復相当
(13万キロリットル)の燃料を削減



CO₂の削減

(2006年度実績)

- ・東京ドーム 135杯相当
(年間32.9万トン)のCO₂を削減



騒音の低減

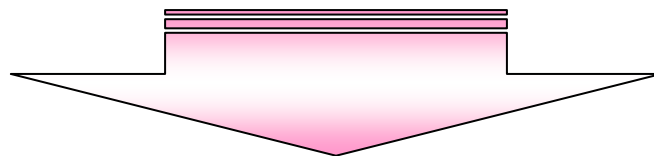
- ・APUの騒音を抑え、
空港周辺地域との共生



エコ
エアポート化に
貢献

セグメント別経営戦略【整備事業】

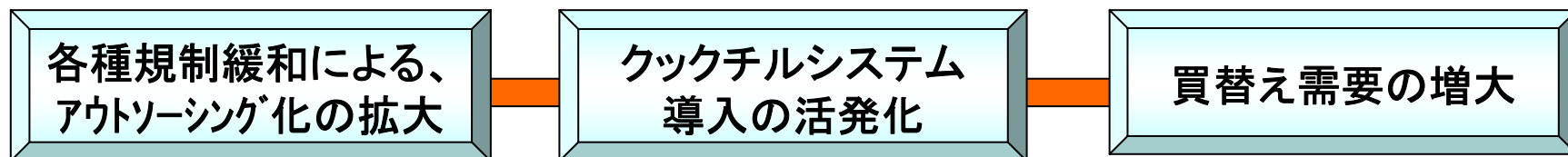
- ① 空港内特殊設備に対するノウハウと、24時間体制の強みを活かした、積極的な提案型営業の展開を図る
- ② 空港整備拡充計画に合わせた新規業務の受託を図る
- ③ 設備の老朽化に伴う補修作業等の受託を図る
- ④ 調達コストの削減や、改修更新工事等の内製化を図る



新規需要を開拓し、収益の拡大を図る

セグメント別経営戦略 【付帯事業】①

■ フードカート関係



体制の強化

- ①事業部組織の改正により、
 - ・「販売」「生産」「メンテナンス」体制の増強・充実を図る
 - ・西日本地域の営業体制の強化を図る
- ②販売提携先の拡大を図る

確実に利益を出せる体質への転換を図る

さらに、当中期計画期間中に黒字化へ

セグメント別経営戦略 【付帯事業】②

■ フードカート関係

新商品の開発

長期的な売上の拡大を目指すため、顧客の要望を捉えた新商品の開発を行い、魅力ある商品を投入する

IHホテルパン加熱カート

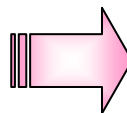
NEW! 2006年度に開発を完了!!

特 徴

- ・ホテルパンで、加熱調理・急速冷却・冷却保管後そのまま再加熱が可能
- ・セントラルキッチンからのバルク配送や、院内でのパントリー配膳に最適
- ・保冷機能付で、安全な食品保管が可能に



さらに



セパレート型IHカート

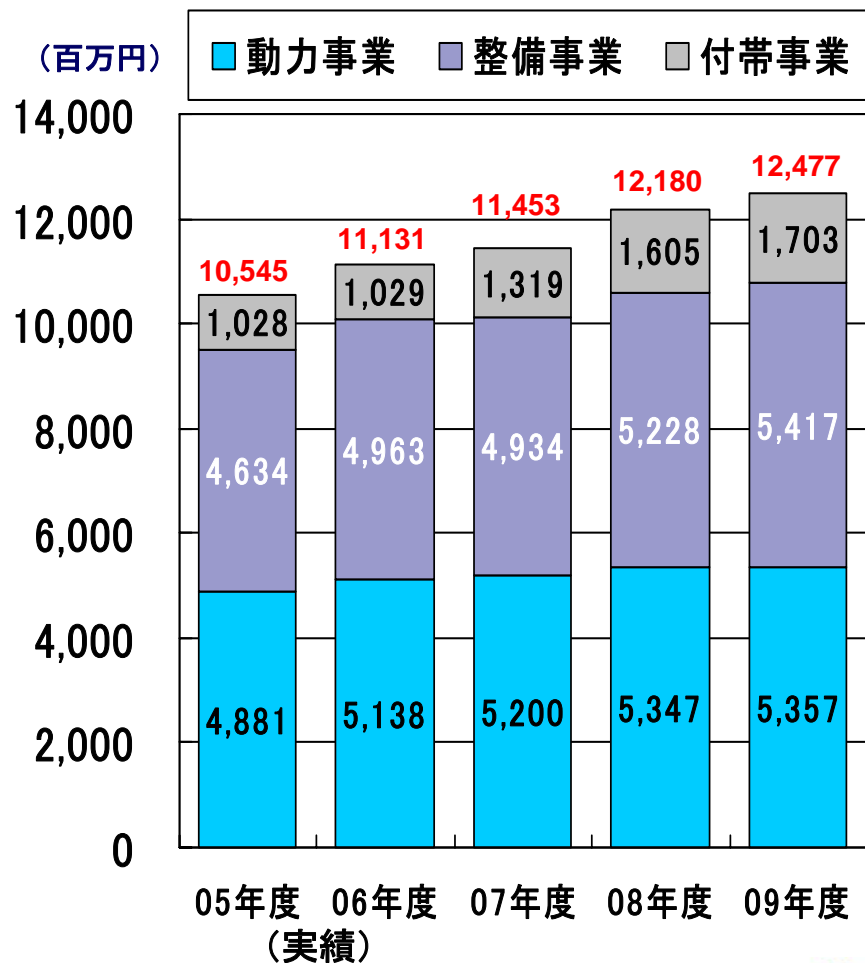
2008年3月を目処に開発中!!

特 徴

- ・作業の効率化と低コストをコンセプトに、機械部分と搬送カートのセパレート化を実施
- ・機械部分を据置きにすることで“移動”に起因する故障発生リスクが低減
- ・保冷・加熱機器が不要となった搬送カートはより一層、軽量・コンパクトに
- ・従来モデルに比べ設備投資額が低減

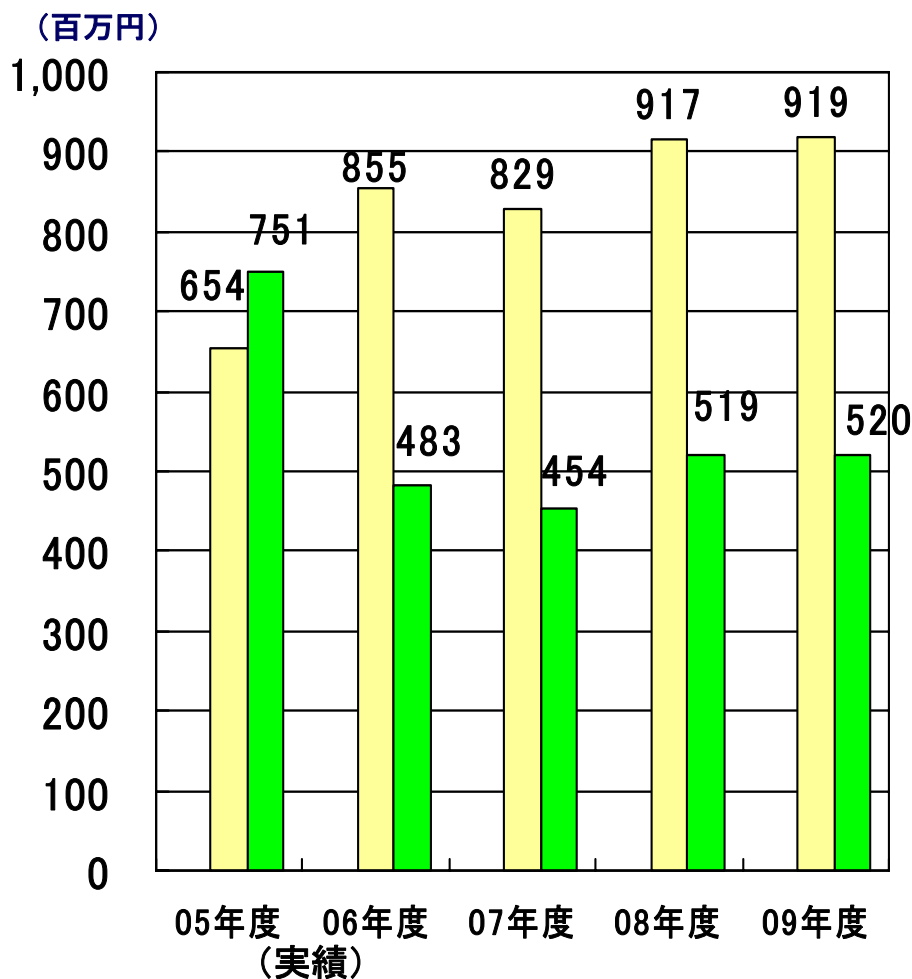
収支計画(2007年度～2009年度)

売上高



経常利益

当期純利益



設備投資計画の概要

- ・羽田空港および成田空港動力設備増設等の設備投資
- ・既存の動力設備更新等の設備投資
- ・準幹線空港への設備投資
- ・フードカートのデモ機および金型製作等の設備投資

(単位:百万円)

	2006年度(実績)	2007年度	2008年度	2009年度
設備投資額	945	1,094	2,036	1,551

経営の基本方針

■ AGPグループビジョン

社会からの信頼を受ける会社を目指し、
社会の繁栄と地球環境の浄化保全に貢献する

■ 基本方針

- (1) 安全・衛生、品質、環境および技術の維持・向上を第一とし、
全ての事業の基盤とする
- (2) 動力および整備事業は経営の根幹であり、更なる充実・拡大を図る
- (3) フードカート事業を新たな柱として育成し、更なる経営基盤の強化を図る
- (4) 動力事業によるCO2排出抑制・燃料の節減・騒音防止のみならず、
空港における省エネルギー設備の導入提案等、更なる空港環境
向上への取組みを行う
- (5) 将来の発展のため当社の強みを活かした新規事業の開発に取り組む
- (6) グループ経営を強化し、グループとしての総合力を高める



2007年3月期 業績報告(連結)

2007年3月期 Topics

TOPICS

- 06年 2月 : 神戸空港 動力事業進出
- 06年 3月 : 鹿児島空港 動力事業進出
- 2005年度 : 個別売上高100億円突破

- 06年 4月 : 厚生年金基金の過去分返上認可
- 06年 6月 : 成田空港 第1PTB 第3・4・5サテライト供用開始
(計13スポット)
- 06年 7月 : 新動力料金体系導入
- 06年11月 : 神戸空港 固定式動力供給設備供用開始(4スポット)
- 07年 2月 : 羽田空港 第2PTB 南ピア供用開始(5スポット)
IHホテルパン加熱カート 販売開始
- 2006年度 : 連結売上高110億円突破

2007年3月期業績

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	対前期比 増 減
売上高	10,545	11,131	586
売上総利益	1,507	1,751	244
販管費	759	825	65
営業利益	747	925	178
営業外損益	▲92	▲70	22
経常利益	654	855	201
特別損益	644	▲4	△648
税引前当期純利益	1,299	851	△447
当期純利益	751	483	△268

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高

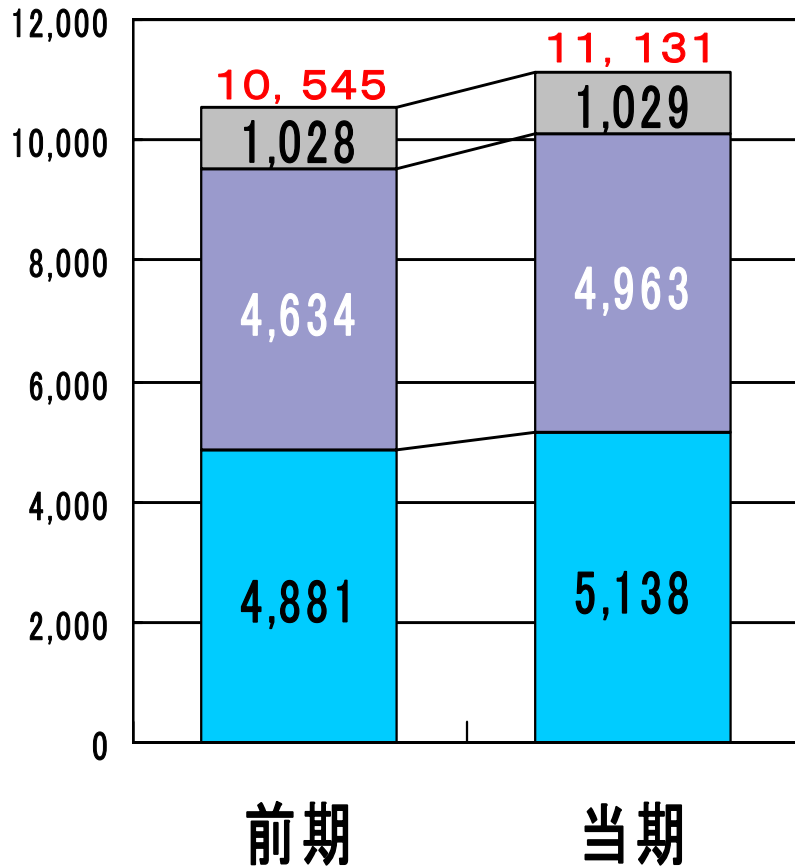
当期合計

11,131百万円

前期比 586 (105.6%)

(単位:百万円)

■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業



<増要因>

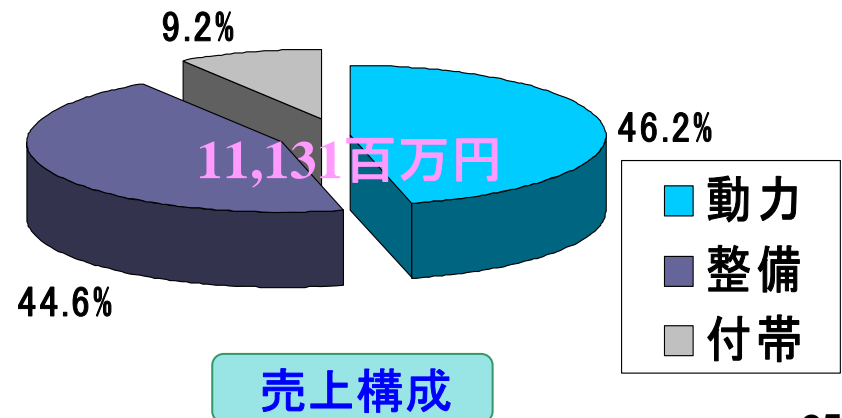
(増加)

動力事業 +256

整備事業 +329

付帯事業 +0

計 586

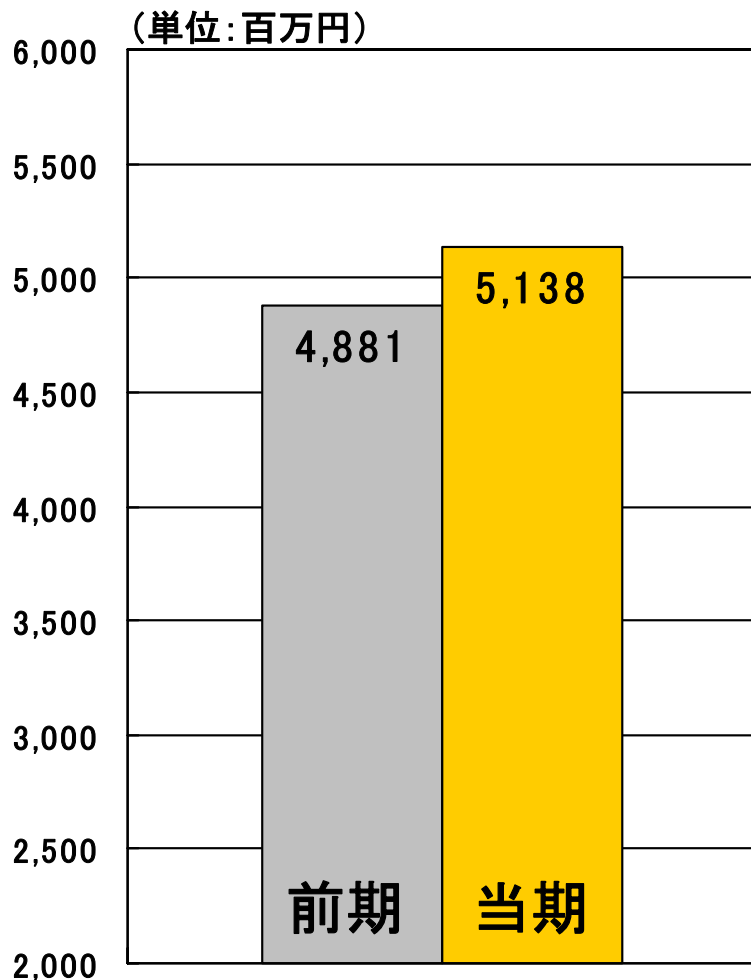


(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ① 動力事業

5,138百万円

前期比 256 (105.3%)



<主な増減要因>

(増加)

成田	+220	ANA, 外国社への供給増
羽田	+58	JALへの供給増

(減少)

関西	$\Delta 29$	} 小型化による減
伊丹	$\Delta 20$	

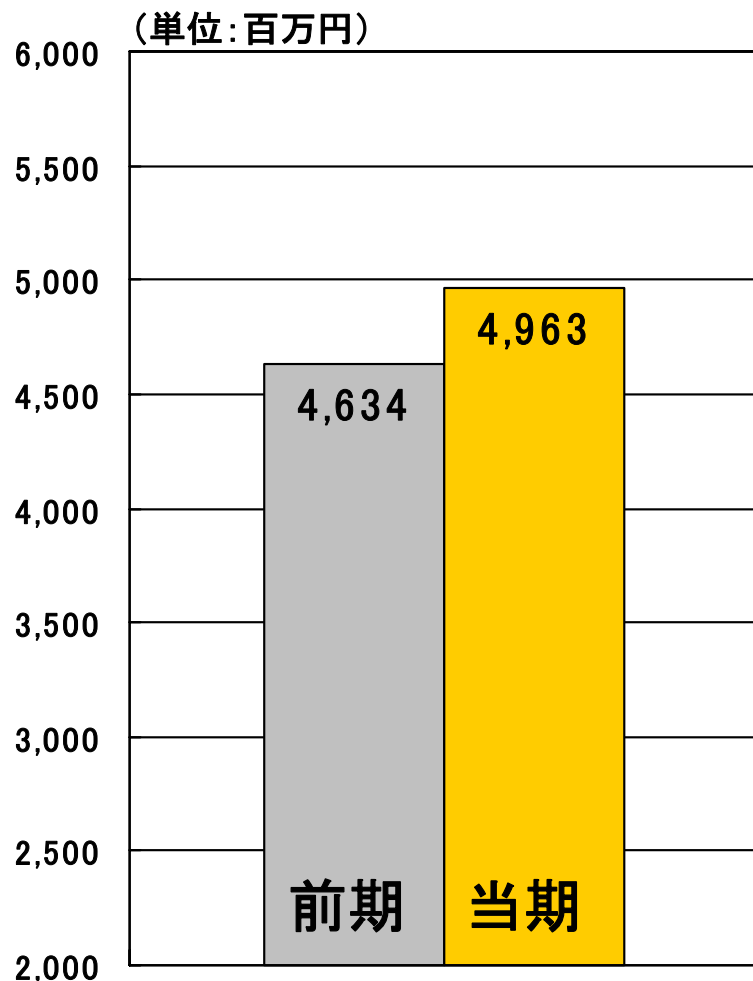
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高

② 整備事業

4,963百万円

前期比 329 (107.1%)



<主な増減要因>

(増加)

成田	+251	} 新規契約、 改修工事の増
関西	+112	

(減少)

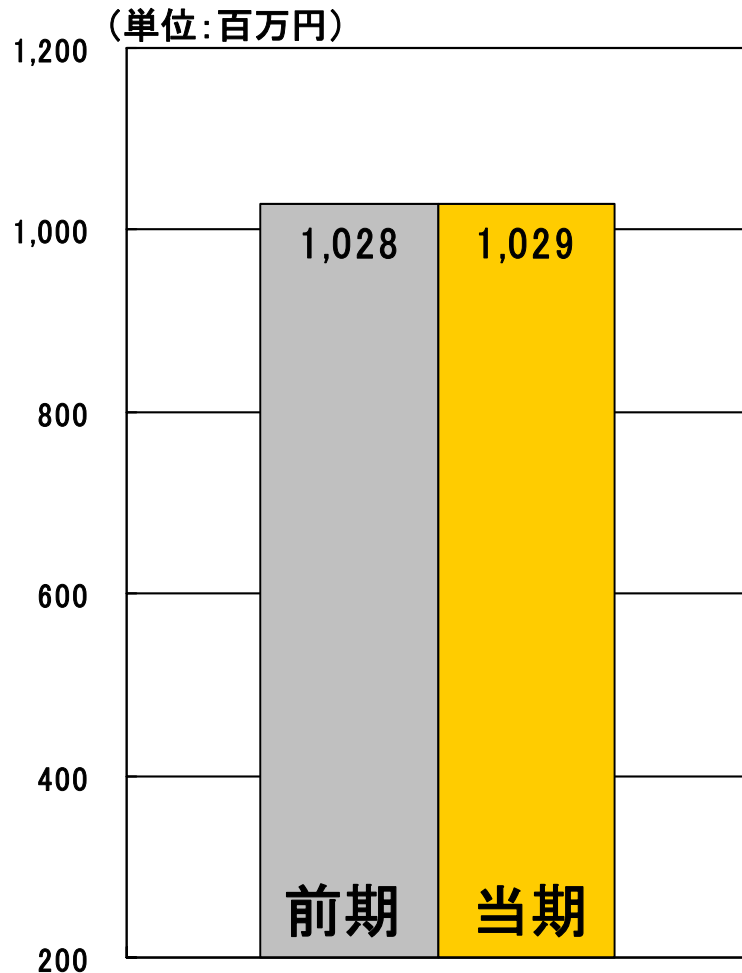
羽田	△49	} 設備保守、 改修工事の減
那覇	△12	

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ③ 付帯事業

1,029百万円

前期比 0.7 (100.1%)



<主な増減要因>

(増加)

成田 +54 { X線手荷物検査装置修理
航空機用電源装置販売等

本社動力事業部

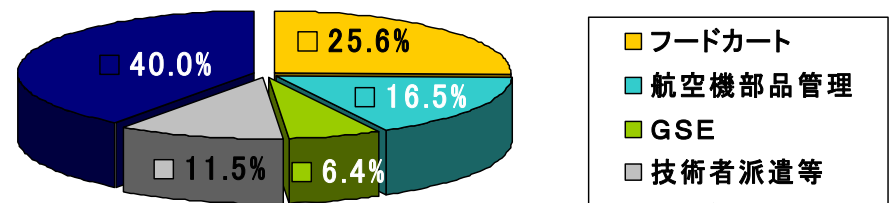
+33 { 航空機用冷暖房車
航空機用電源装置販売等

(減少)

フードカート事業部

△47 フードカートの販売

伊丹 △21 航空機用電源装置販売等



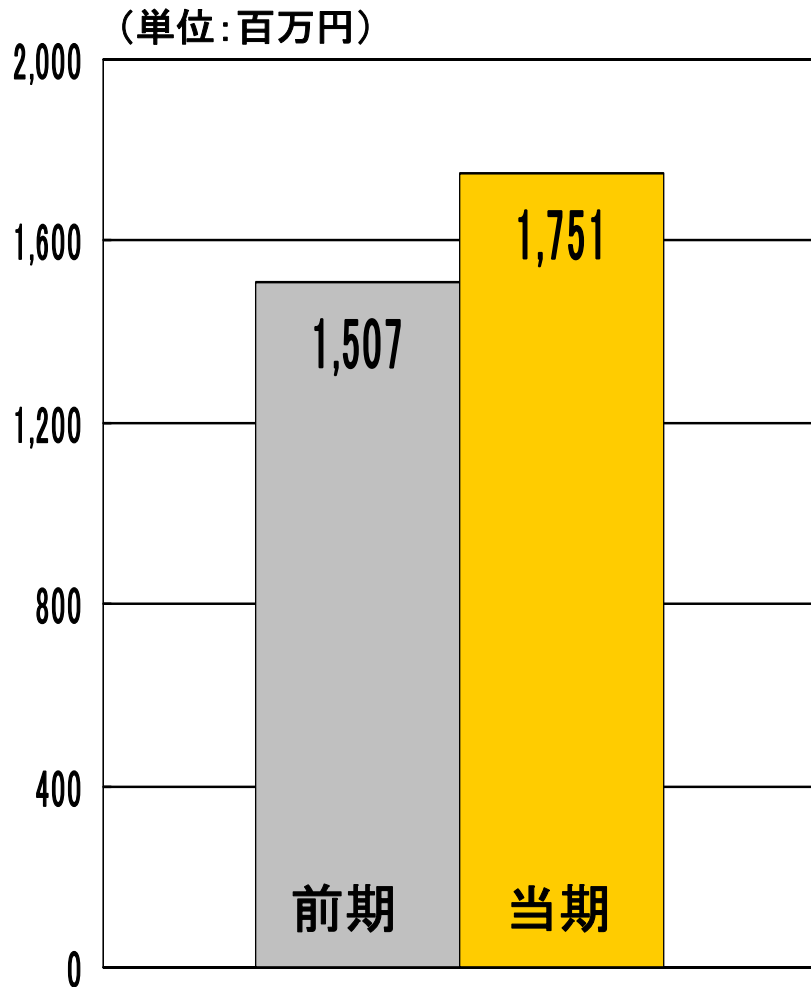
[売上構成]

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上総利益

1,751百万円

前期比 244 (116.2%)



<セグメント別 主な増益要因>

[動力事業 64]

[整備事業 196]

[付帯事業 Δ 17]

減価償却費 Δ 142

退職給付費用 Δ 71

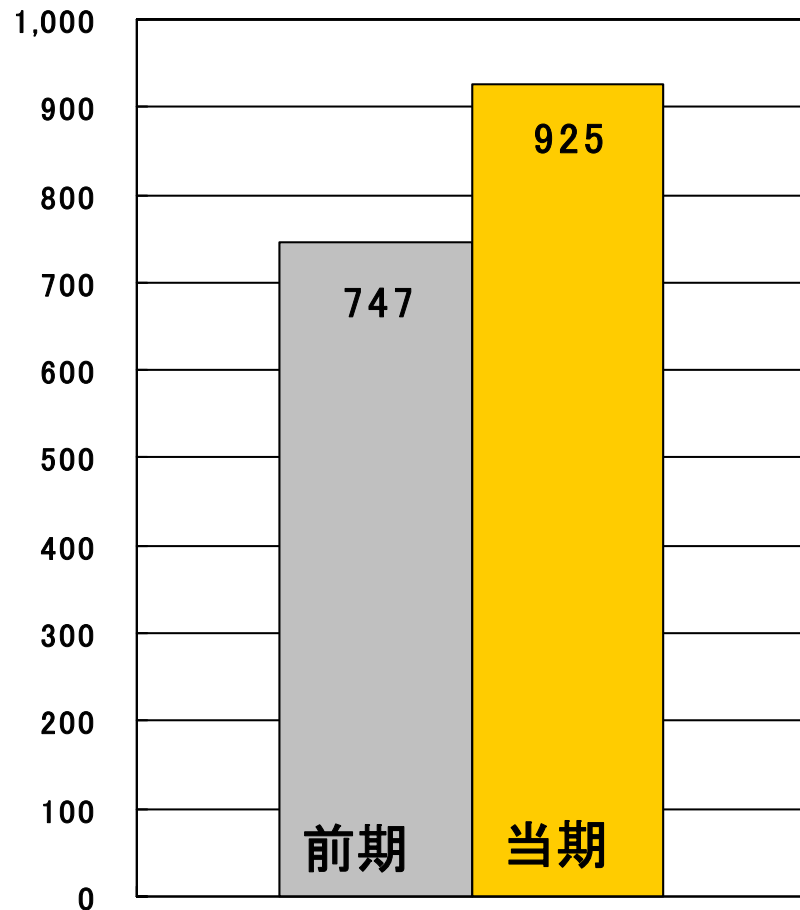
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

営業利益

925百万円

前期比 178 (123.9%)

(単位:百万円)



<増減要因>

売上総利益の増 +244

販売費および
一般管理費の増 +65

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

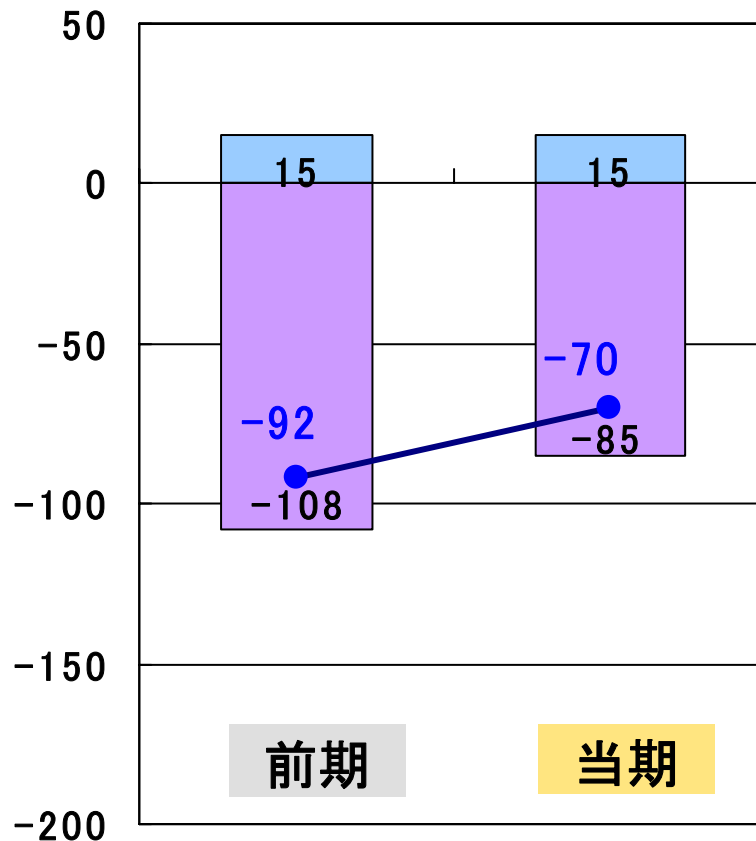
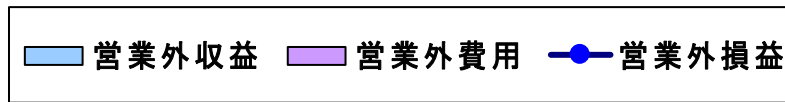
営業外損益と経常利益

営業外損益

▲70 百万円 前期比 +22

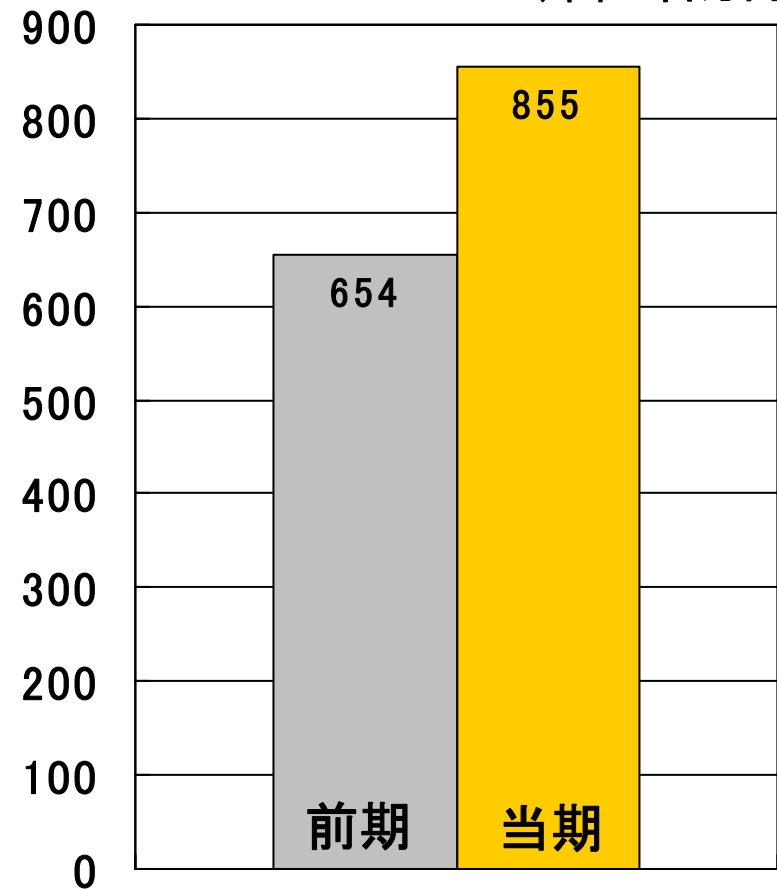
経常利益

855 百万円 前期比 +201



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

(単位:百万円)



2007年3月期の業績(要約)

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	対前期比 増 減
売上高	10,545	11,131	586
売上総利益	1,507	1,751	244
販管費	759	825	65
営業利益	747	925	178
営業外損益	▲92	▲70	22
経常利益	654	855	201
特別損益	644	▲4	△648
税引前当期純利益	1,299	851	△447
当期純利益	751	483	△268

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2008年3月期 通期 業績見通し①

売上高(セグメント別)

(単位:百万円)

連結	上期予測	下期予測	通期予測
動力事業	2,556	2,644	5,200
整備事業	2,206	2,727	4,933
付帯事業	621	698	1,319
売上高計	5,383	6,069	11,452

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2008年3月期 通期 業績見通し②

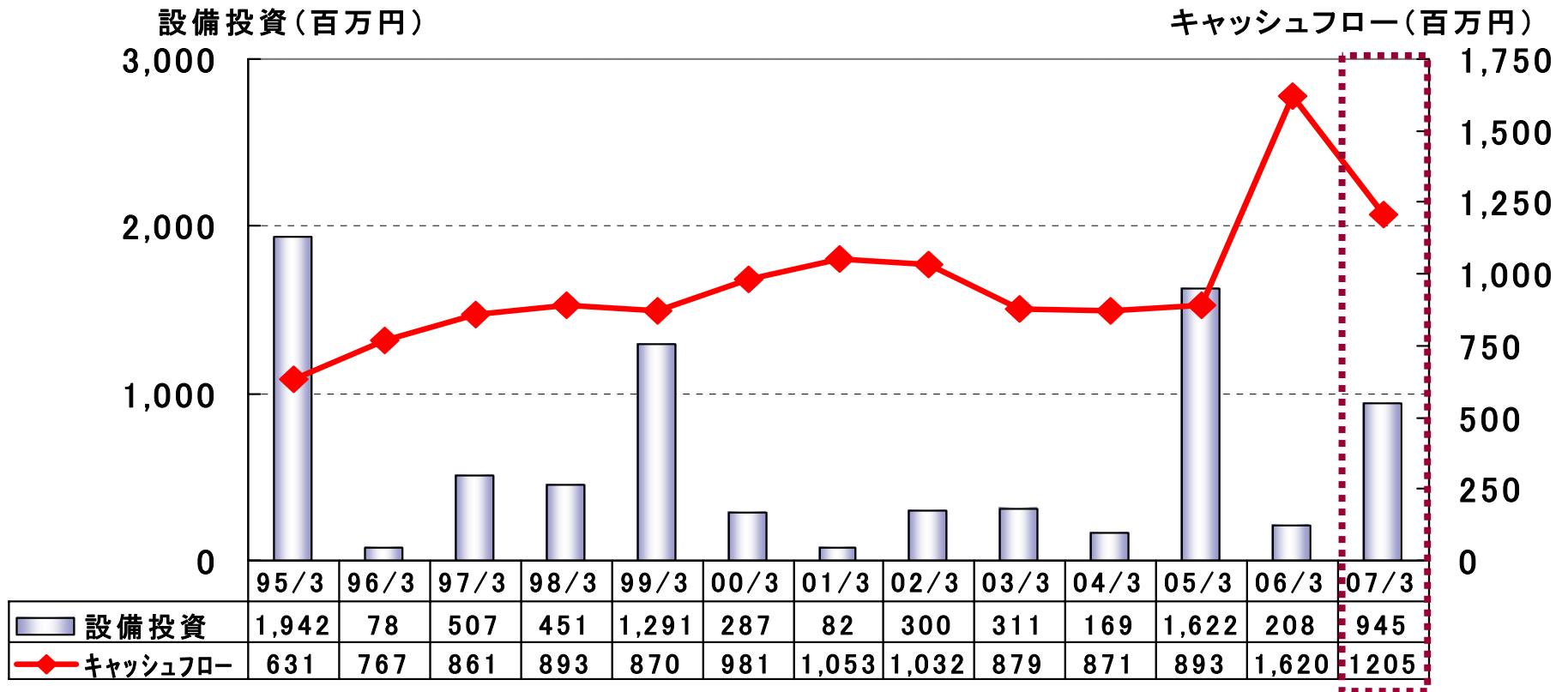
(単位:百万円)

	2007年3月期 実績	2008年3月期 予測	対前期比 増減
売上高	11,131	11,452	321
売上総利益	1,751	1,762	11
販管費	825	855	30
営業利益	925	906	△19
営業外損益	▲70	▲78	△8
経常利益	855	828	△27
特別損益	▲4	▲7	△3
税引前当期純利益	851	821	△30
当期純利益	483	453	△30

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

設備投資とキャッシュフロー

'93/3 新千歳・成田Ⅱ期増設 '94/3 羽田西側新設 '95/3 関西新設 '99/3 那覇新設
'03/3 広島新設 '05/3 羽田第2PTB新設 '06/3 神戸・鹿児島新設



(注)00/3より連結決算を開始、93/3～99/3は単独ベース
キャッシュフロー＝「当期純利益」＋「減価償却費」

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただき
ましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記載されている
将来の業績予想は、経営環境の変化などに
伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることに
ご留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL: <http://www.agppgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

